

2022 夏期募金 にご協力ください

JOCsは、イエス・キリストの
教えにしたがい
困難のなかにある人々の
健康といのちをまもり、
人々と苦悩・喜びをわかちあう
ために活動しています。


医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE



タンザニアの布キテンゲに
くるまれた赤ちゃん

タンザニアのマーク・ハビブ・カルファンさん（28歳）は、雨宮春子ワーカーと同じ病院で働く医師補です。JOCSの奨学生として、2020年から医師の資格取得のため学び始めました。

病院のあるタボラ州は、タンザニアの中でも特に保健医療事情が悪い地域です。州内には十分な数の医師がおらず、妊産婦や新生児の死亡率が高くなっています。

ある日、マークさんが勤務中の病院に、緊急の手術が必要な妊婦が搬送されてきました。しかし、そのとき病院にはその手術に対応できる医師がいませんでした。医師補であるマークさんは手術をおこなうことができません。その妊婦を隣の地区の病院に搬送することになりましたが、その病院は遠くにあります。搬送に時間がかかりました。結局、手遅れとなり、その妊婦を助けることができませんでした。この経験は、医師補だったマークさんにとって苦い経験として深く心に刻まれました。

医師になって一人でも多くのいのちを助けたい、とマークさんは強く思うようになり、医師の資格取得を目指すことを決意しました。

現在マークさんは、予防医学に関心を持って学んでいます。学校が長期休暇のときは、病院に戻りボランティアとして診療に入ることもあります。実際に診療することで、新しく得た知識や技術を実践することができ、自分の勉強にもなるとマークさんは言います。

「地域の人々の健康への関心を高めるために健康教育にも取り組みたい。質の高い医療を提供できる医師になりたいです」



聖ヨハネ・パウロ2世病院（タンザニア）
マーク・ハビブ・カルファンさん
（医師補）

すべての人々が基本的な保健医療サービスを受けられるように、

JOCSは保健医療従事者の育成を進めています。

この活動はすべて皆様のご支援で成り立っています。JOCSの活動をどうぞご支援ください。